



横浜陶芸友の会だより

第 179 号

令和 3 年

4 月 1 日発行

「この事態をポジティブに捉えて」

横浜陶芸友の会 会長 高橋光男

会員の皆様、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、不要不急の外出を控えるように求められている状況下で色々な思いを抱きながら過ごされていることと存じます。

2020 年度の作品展についてはコロナウイルス感染症拡大推移により、開催数日前に急遽中止することになり、出品等準備をされていた方々には申し訳ありませんでした。

今回のコロナ禍における身の周りの状況や情勢、国内外の様々な報道を見るにつけ、人間としての資質を試されているような気持ちになります。

「役員会」については、感染症拡大状況により「地区センターでの役員会」または、「リモート会議」で、「総会」については役員会において、実施方法を決定いたします。

来年もしくは数年後の今頃、「あの時はいい人生経験だった。」と笑って話せるよう、力を合わせてこの困難な状況を乗り越えていきたいです。この事態をポジティブに捉え、会員の皆様において自宅で健康に過ごす時間が増える中、自宅での時間が有意義なものになることを、願っております。

第四十二回「作品展」(中止) 事業報告

事業部

昨年、会報(4月号)で「作品展」に対する「アンケート」を行う記事を載せました。

メールや往復はがき等でいただいた回答をもとに、会長や部長とズーム会議を行い会報(9月号)で「作品展アンケート」の結果報告と開催する記事を載せました。

会報(11月号)に「作品展案内」を同封しコロナ感染予防対策の準備も行い、参加者からの申し込みも届き、後は、無事に開催できることを願うばかりでしたが、感染拡大のため急遽中止となりました。(残念)

☆今年度は、開催できることを願いつつ

「かなつくホール」の7月申し込み結果を待ちたいと思います。

「秋期焼成会」について

専修部

たびたびの緊急事態宣言下で、なかなか終息を見ないコロナですが、長期戦になるともいわれています。with コロナの考えのもと、感染対策をしながら例年通り「秋期焼成会」を実施する予定です。

今年は釉薬を一新するべく準備をしています。具体的には

- ①唐津ワラ白 ②トルコマット
 - ③そば釉 ④青織部 ⑤チタン窯変釉
 - ⑥飴釉 ⑦斑唐津 ⑧黄瀬戸(酸化)
 - ⑨黒天目 ⑩朱赤 ⑪その他。
 - ⑥と⑦で朝鮮唐津、
 - ①と④、⑨と⑩の
- 掛け分けも面白いと思います。

少しでも焼成会が楽しめるよう企画しましたので是非ご参加くださるようお願いいたします。

☆詳細については次号にてお知らせいたしますが **9月を予定** しています。

「紙上作品展」のお知らせ

(会報担当) 鍋島弘義

第42回「作品展」が急遽中止になったため
会報での「作品介绍」が出来なくなりました。
そこで、会報にだけでも「作品介绍」がで
きないものかと、出展を予定されていた方達に
企画の案内を出しました。
次の文面がその内容です。

第42回横浜陶芸友の会「作品展」へ
出展申し込みをされた方へお願い

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け、
「第42回 横浜陶芸友の会 作品展」は急遽
中止となりました。

(ギリギリまで準備したのですが・・・)

そこで、今回「会報」での「紙上作品展」で
皆様の1年間の成果を会員の皆様にお伝えした
いと企画することになりました。

「協力 よろしくお願いたします。」

〈必要なデータ〉

※メールで写真を送るとき、容量を小さく
してください。

(送・受信ができない可能性があります)

①作品全部を一枚に並べた写真
作品の大きさの比較ができるように

②個々の作品説明(一部を拡大した写真)
作品への思い・釉薬・作り方 など
何でも皆様に話したい事

〈メールアドレス〉

※メールが苦手な方は普通の写真と説明文を

まで送付してください。
編集いたします。

ご賛同いただいた方からデータをいただき
ましたので、ご紹介していきます。

参考にされて、「紙上作品展」に「協力
お願いいたします。」

※なお、この企画の提出期限は、11月の会報発
行までですので、10月末までにデータをいた
だけると掲載できます。

また、今回出展を見合わせた方も会報を盛り
上げるためにも「協力」をお願いいたします。

令和3年「紙上作品展」紹介 ①

第42回「作品展」に出展する予定だった
作品の写真や説明文と提出された作品一覧表を
もとに編集しました。

「今年作品」

吉良 謙



「スピーカーエンクロジヤ」

高さ 53cm、奥行き 23cm
信楽土 織部釉、白萩釉

陶器で造ったスピーカーボ
ックスは箱鳴きがなく、丸
い形と相まって音が
素直にでます。



今年の作品は、新たに作成したもの他に、以前釉薬の掛け方が悪かったもの、穴窯焼成で焼き方が甘かったものを再度焼成し直して、作品の出来を上げてみようかとチャレンジしてみました。

絵付けは、葡萄の絵をはっきりと際立てたいという思いで描きましたが、呉須の色が少し濃く、にじみ過ぎてしまいました。もう少し呉須の濃さ、種類など陶土とのバランスを考えたいと思います。



- ・右上「花器」マット釉 信楽土+呉須
- ・手前「中鉢・ぐい呑み」織部釉 唐津土
- ・真中「德利」信楽土
穴窯焼成(自然釉)⇒電気窯による再焼成
- ・左上「片口・小鉢」備前土
穴窯焼成(自然釉)⇒電気窯による再焼成

「今年の作品」

大日方 毅



新しい作品を作るだけでなく、これまでに作った作品を見直して焼き直しをすることにより陶芸の奥の深さと面白さを実感しました。

備前の小鉢ですが、焼き方が少し甘かったのと雑木の釉薬が残ってしまったため、今回「さや」にコーヒの残りかすを入れて酸化焼成してみました。もっと黒く炭っぽくなるかと思いましたが、焼きの変化もでて、納得の作品となりました。但し暫くの間、電気窯にコーヒの焼け焦げた臭いが残りました。

ぐい呑みの高台は、釉薬の掛け方が雑だったため、昨年の作品展の時、会員の方から「釉薬添加剤を入れて二度焼きするといよいよ」というアドバイスを思い出し、再焼成してみました。お陰様で綺麗に仕上がりました。有難うございます。



- ①「四角皿」黄土 穴窯焼成 自然釉
- ②「一輪差し」黄土 穴窯焼成 自然釉
- ③「長方角皿」黄土 穴窯焼成 自然釉
- ④「足付鉢」特白黒泥 酸化窯 透明釉
- ⑤「丸中皿」特白黒泥 電気窯 透明釉
- ⑥「丸小皿」本業土黒泥 電気窯 透明釉
- ⑦「小皿」本業土練り込み色彩 電気窯 透明釉
- ⑧「長角皿」本業土練り込み色彩 電気窯 透明釉
- ⑨「長方角皿」本業土黒泥 電気窯 透明釉
- ⑩「片口」信楽荒目 穴窯焼成 自然釉

○今年は練り込みに挑戦しました。が、亀裂が入ってしまった、組み合わせで裏打ちしたペアにならなくなってしまいました。かえって面白くなったかと思ったりしています。

「今年の作品」

吉村希世子

⑨「丸型大鉢」
全体にチタンマットをかけ、口周りに乳緑釉をかけたら桜色が浮き上がり優しい色合いにできました

⑧「押し柄角皿」
各々の絵柄に黄瀬戸の釉薬が予想以上の色合いに出来上がりがうれしかったです



「今年の作品」

池見千枝子



- ①「花入」 古信楽土 穴窯 ②「ぐい呑」 古信楽土 穴窯 ③「湯呑」 古信楽土 穴窯
- ④「手付小物入れ」 古信楽土 織部釉(専修部) ⑤「角皿」 古信楽土 織部釉(専修部)
- ⑥「花型皿」 古信楽土 織部釉(専修部) ⑦「箸置」 古信楽土 織部釉(専修部)
- ⑧「押し柄角皿」(5種) 古信楽土 黄瀬戸釉(専修部)
- ⑨「丸型大鉢」 信楽赤土 チタンマット 乳緑釉 ⑩「角皿」 信楽白土 乳緑釉 青銅マット釉
- ⑪「箸置」 信楽白土 乳緑釉 (特設コーナー)「片口」 黄土マット 青緑窯変釉



「今年の作品」

本橋昭彦

「昨年より思いもよらぬコロナ禍に遭い、生活が色々制限される中、少しずつですが作品作りができて良かったです。コロナに負けず元気でいれば逢えるので頑張りましょう。」



(特設コーナー)
「片口」
黄土マット 青緑窯変釉

- ・「板目・四角大皿」
信楽粘土+伊賀粘土(細目) 穴窯焼成 自然釉
- ・「取り皿」
伊賀土(2)+茂木A(1) 穴窯焼成(重ね焼き)

薪は、檜の木材だけの焼成という初めての経験で大変苦労しましたが、思っていたより良い焼き上がりでした。

「破れ袋」以外の作品は、素焼きなして、生で窯詰めし、鼠志野も生で化粧掛け、釉薬掛けして焼成したものです。



- ・「破れ袋」写し 古信楽荒土 穴窯焼成(檜木) 自然釉
- ・「鼠志野・四方平鉢」・「鼠志野・抹茶茶盤」・「鼠志野・筒茶盤」
志野土 鬼板+墨呉須で化粧掛け 平津長石を生掛け 穴窯焼成
- ・「湯呑」 混ぜ土(A2・伊賀・茂木A・古信楽) 穴窯焼成 自然釉
- ・「片口」(特設コーナー) 黒泥(1)・唐津土(1) 穴窯焼成 自然釉

今回の作品は、昨年の10月29日から11月3日にかけて、沼津の「あしたか芸術村」の穴窯を借りて96時間焼成したものです



「コーヒーカップ」(8点) 電気窯
赤5号 白化粧(3点)
赤4号 糠白釉(5点)
手製工具で外周をしのぎ削り



(特設コーナー) 片口
赤 5 号 糠白釉 電気窯焼成



「リム皿」(7点) 電気窯
赤 5 号 白化粧(5点) 糠白釉(2点)
(サイズ)左上から 11.5 13.1 14.8 17.8cm
左下から 19.6 21.1 23.0cm
白化粧は生掛け 糠白釉は素焼き後
型紙を作成 半乾燥時点で外周を切り落とす

「今年の作品」
吉川 勝



「2種類の溝堀用」

材料は傘の骨の廃材
既に減価償却済でゼロ円
ハンマーで平らに、形状を
ヤスリ仕上げ後ラジオペンチ
で曲げる

「幅広の凹加工用」

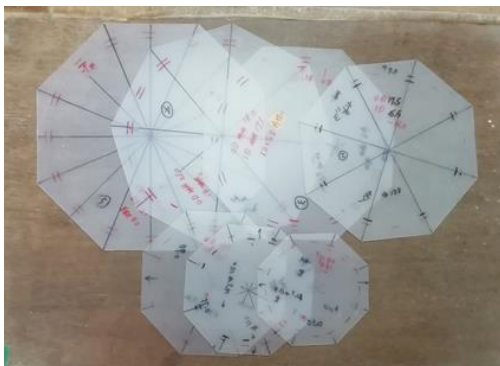
材料は傘の骨の廃材
既に減価償却済でゼロ円
ハンマーで平らに、形状を
ヤスリ仕上げ後ラジオ
ペンチで曲げる



「平面削り用」

材料はファミリーソー替刃
(ダイソーで3本100円)
平面が欲しいので、バーナー
で焼きなまし後ペンチで挟
み直角にする

※「手製工具」の紹介をしていただきました。
皆さまも、参考にして作成してみましよう。



「リム皿型紙」7枚

以前会員の方より頂いた
図面の倍率を変更して作成
PP.シート ダイソーで100円

「剣先」
お皿の外形の切り欠き用

材料は傘の骨の廃材
既に減価償却済でゼロ円
ハンマーで平らに形状を
ヤスリで加工する



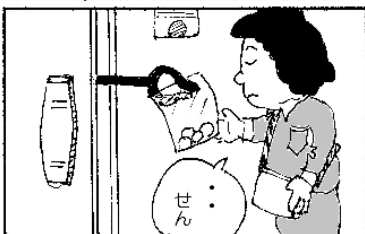
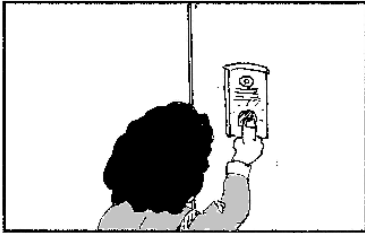
「底面をR形状に加工」

材料はファミリーソー替刃
(ダイソーで3本100円)
軽く焼きなまし後パイプに
巻き付け末端をステンレス
ワイヤーで固定する

陶陶さん

第 101 号

あかほし



作品の大きさがわかるように単三電池と比較してみました。



穴窯焼成(自然釉+ペルシャブルー)



「片口」
穴窯焼成(自然釉)

「今年の作品」

高橋光男

訃報

横浜陶芸友の会 元広報部長をされた
加瀬ヒサ子様 が令和2年11月24日
92歳で逝去されました。
ここに謹んでご冥福をお祈りすると
ともに
お知らせ申し上げます



「ぐい呑みと片口」
・「片口」穴窯焼成(自然釉)
・「ぐい呑み」
穴窯焼成(自然釉+ペルシャブルー)

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 179 号

(令和 3 年 4 月 1 日発行)
発行人 横浜陶芸友の会

【編集後記】

・残念ながら、新型コロナ感染拡大のため、緊急事態宣言が急遽発出され、今年の作品展は中止となってしまいました。
心残りではありますが、我々の作陶意欲は変わらないと思っております!!
気持ちも新たに次なるテーマに向けて作陶し続けていきたいです。

(大日方)

・会員の制作意欲大勢が感じられる紙面となりました。秋の紙面が楽しみです。

(季楽軒)

・「作品展」は中止になりましたが、皆様のお陰で「紙上作品展」を掲載することができました。ありがとうございます。
次回の会報にも、自作工具や釉薬の研究成果など、お知らせいただけると会報も充実いたします。

(鍋島弘義)

ご協力よろしくお願いいたします。